



具体的な事例で見る

開発・クローズド環境として プライベートクラウドを活用する 構成パターン3選

株式会社IDCフロンティア

2023年9月13日

はじめに

円安、半導体不足、電力料金の高騰など、様々な社会問題に影響を受け企業のシステムとして対処すべき課題は増えています。
一方で、このような先の読みづらい状況で、根本的に脅威に対処するためのシステム改修は大変困難です。

本資料は、IDCフロンティアのデータセンターやクラウドサービスなど、ユーザーが実際にサービスをご導入いただいた事例を元に、システムの構成例をご紹介します。

みなさまのシステム課題の解決のヒントになれば幸いです。

本書のテーマ

- ・ オンプレミス→クラウド化で運用課題を解決
- ・ サイジングにより最適リソースのクラウドへ
- ・ コストの最適化

こんな方におすすめ

- ・ オンプレミス環境で、物理機器の運用・管理が負担
- ・ コストの見直しを行いたい

Case

- A. 開発環境を完全クラウド化！
シンプル環境&コスト削減
- B. オンプレの一部をクラウド化！
柔軟なハイブリッド構成
- C. 専用クラウドで自由な開発環境構築と
コスト管理を両立

Case-A

**開発環境を完全クラウド化！
シンプル環境&コスト削減**

Case-A：開発環境を完全クラウド化！シンプル環境&コスト削減

管理番号：SE076

業種

ソフトウェア/ゲーム

利用システム

基幹システム

背景・状況

- ・ オンプレミス環境で構築している開発環境の物理機器の管理・運用が負担
- ・ 開発環境のコストを削減したい



お客様の課題

- オンプレミス機器の運用負荷が大きい
- 開発環境にかかるコストを削減したい
- 良い環境があれば簡単に移行したい

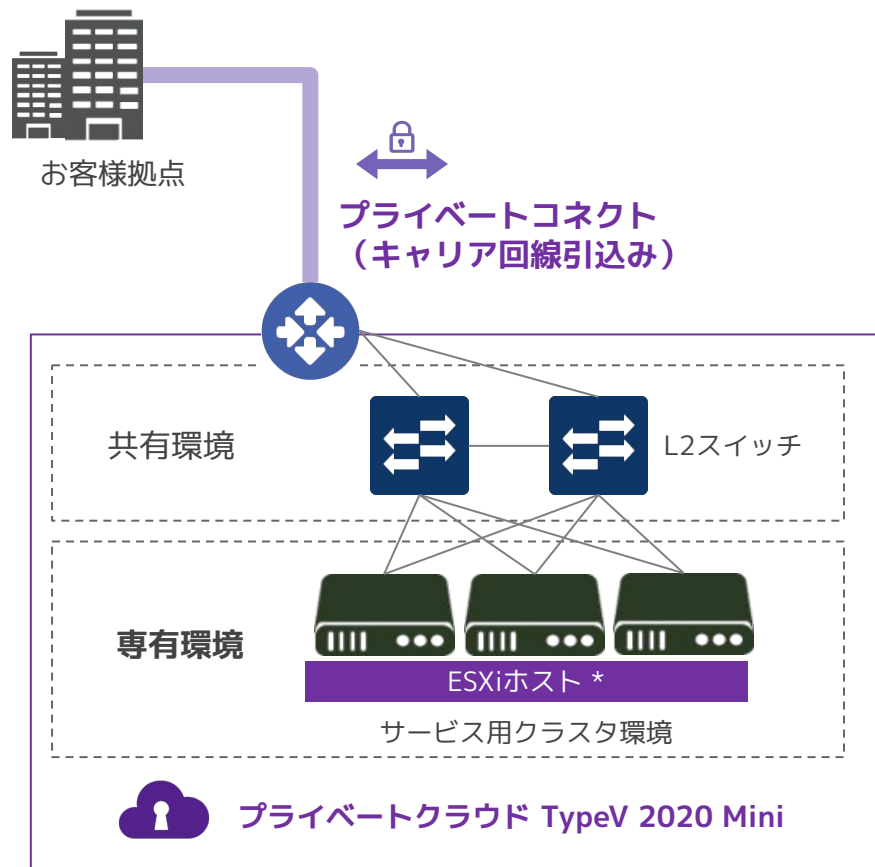


IDCフロンティアのご提案

- プライベートクラウドへの移行を提案
- 利用規模に合わせた最適プランを提案
- 過去実績をベースとした移行アドバイス

導入効果

- プライベートクラウドへの移行で、物理機器や仮想化基盤のハードウェア運用保守から解放され、開発業務に集中できるように
- 開発環境という限定的な利用形態に適した、低コストかつシンプルな環境



構成のポイント

- ① オンプレミス環境をすべてクラウドに移行
- ② 利用用途・規模にあった「プライベートクラウド TypeV 2020 Mini」を利用することで最小限のサーバー台数での運用が可能になりコスト最適化を実現
- ③ お客様拠点とプライベートクラウド間はプライベートコネクト（キャリア回線引込み）で閉域接続

IDCフロンティア利用サービス

- ・ プライベートクラウド (TypeV 2020 Mini)
- ・ プライベートコネクト (L3接続；キャリア回線接続)

*VMware ESXi は米国およびその他の地域におけるVMware, Inc. の登録商標または商標です。

Case-B

オンプレの一部をクラウド化！
柔軟なハイブリッド構成

Case-B：オンプレの一部をクラウド化！柔軟なハイブリッド構成

管理番号：SE073

業種

製造

利用システム

基幹システム

背景・状況

- ・ オンプレミスで運用している社内システムの運用が大変なためクラウドへの移行を検討
- ・ 一部のシステムはオンプレミスのまま継続利用したい



お客様の課題

- 社員用VDIの運用が負担になってきた
- 現在利用中の仮想化技術は踏襲したい
- 一部のシステムはオンプレミスが必須



IDCフロンティアのご提案



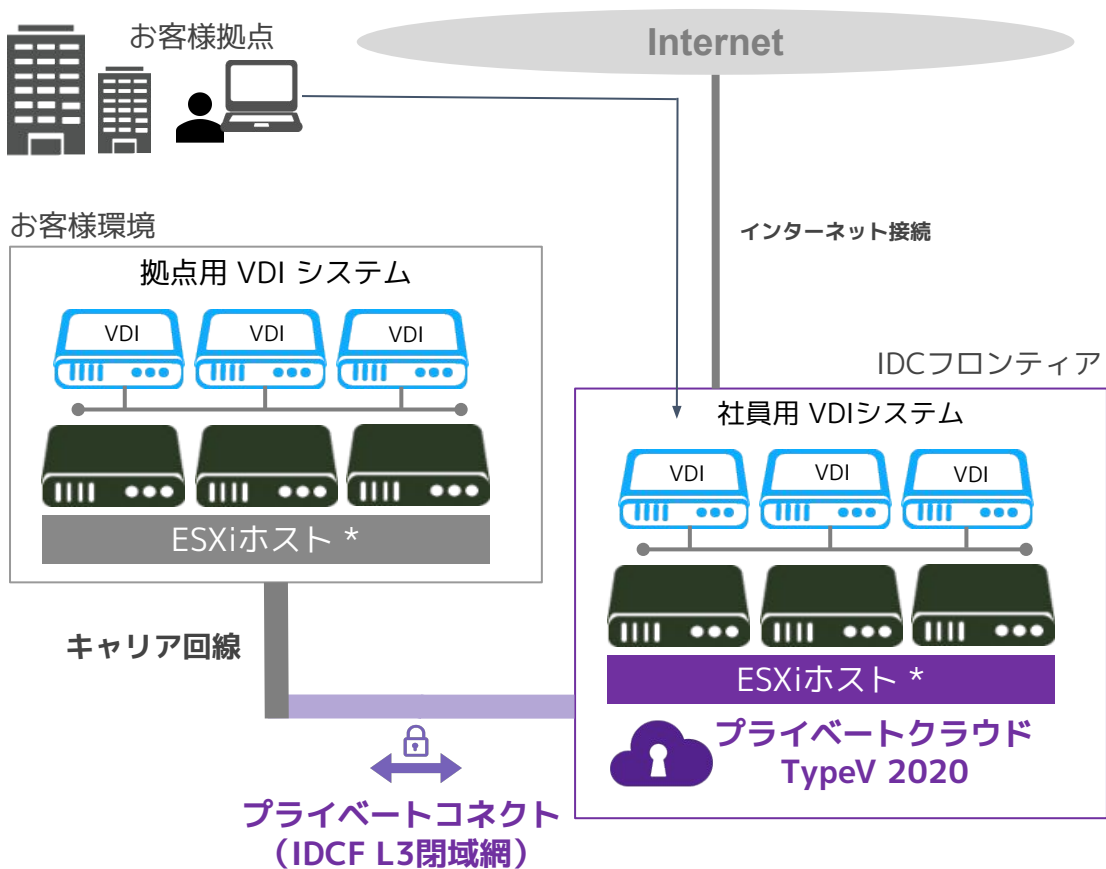
- 社員用VDIをプライベートクラウド化
- オンプレミスと同様の仮想基盤
- オンプレミスとクラウドの連携利用

導入効果

- 社員用VDIシステム基盤をクラウド化。ハードウェアの保守運用コストを削減
- 仮想化技術と運用体制の継承により、学習コスト・運用変更削減
- 社内ポリシーを考慮した、柔軟なシステム構成を実現

Case-B：構成図

管理番号：SE073



構成のポイント

- ① オンプレミス（お客様環境）とプライベートクラウドのハイブリッド構成
- ② オンプレミス（お客様環境）とプライベートクラウドを閉域網で接続し、運用体制変更を最小限に

IDCフロンティア利用サービス

- ・ プライベートクラウド (TypeV 2020)
- ・ インターネット接続サービス (サーバーコネクション)
- ・ プライベートコネクト (L3接続)

*VMware ESXi は米国およびその他の地域におけるVMware, Inc. の登録商標または商標です。

Case-C

専用クラウドで自由な開発環境構築と
コスト管理を両立

Case-C：専用クラウドで自由な開発環境構築とコスト管理を両立

管理番号：SE053

業種

サービス

利用システム

配信（動画, 画像）

背景・状況

・パブリッククラウドで社内メンバーが勝手に開発環境を構築



お客様の課題

- リソース使用に縛られず自由に使える専有での開発環境がほしい
- 複数存在する開発環境の全体コストを抑えつつ、適切なコスト管理を行いたい



IDCフロンティアのご提案

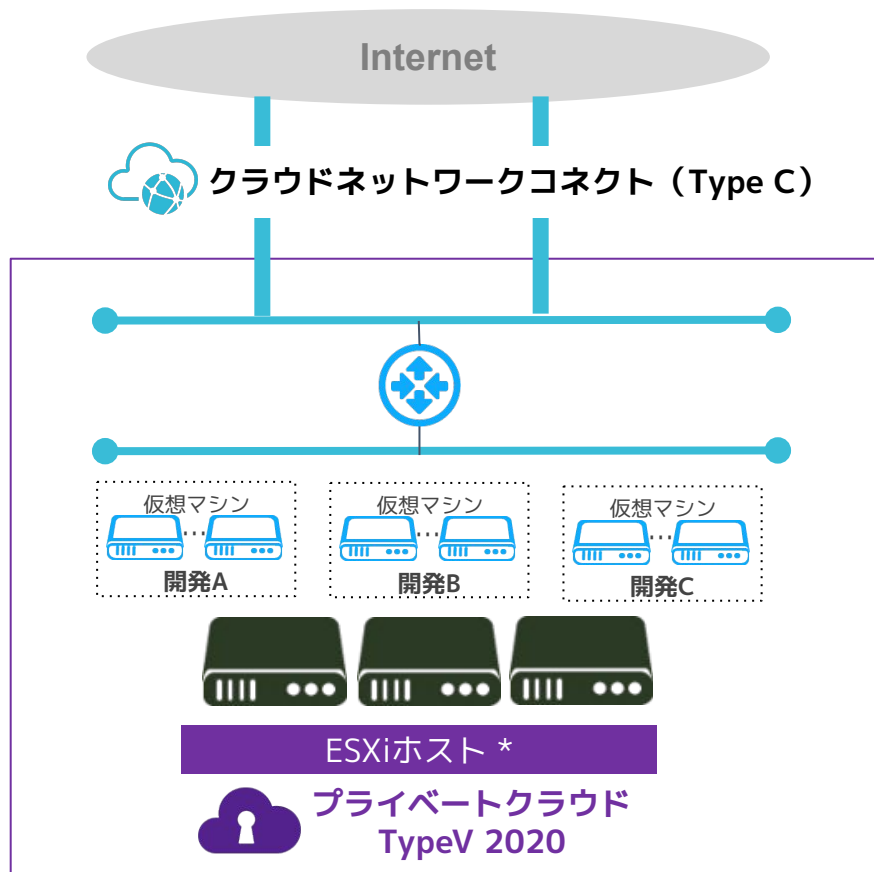
- お客様専用クラウド環境により、提供リソースの範囲内で自由に開発環境を構築
- 専有環境を月額固定で利用出来るクラウド基盤

導入効果

- お客様専用のクラウド環境においても、パブリッククラウドと同様の手順で開発環境の構築が可能
- 一定の月額料金でコスト管理が容易に。今後の拡張時にも追加費用がわかりやすくなった

Case-C : 構成図

管理番号 : SE053



構成のポイント

- ①複数のESXiホスト*により社内の開発に十分なリソース量を確保
- ②インターネット接続サービスを利用しプライベートクラウドとインターネットを直結

IDCフロンティア利用サービス

- ・ プライベートクラウド(TypeV 2020)
- ・ クラウドネットワークコネクト (Type C)

*VMware NSX、VMware ESXi は米国およびその他の地域におけるVMware, Inc. の登録商標または商標です。

IDCフロンティア サービスラインアップ

クラウド



IDCF Cloud

コンピュート
インフィニットLB
RDB
DNS/GSLB



CDN



コンテナ



プライベートクラウド



ベアメタルサーバー

データセンター



コロケーション（ハウジング）
オンサイト運用アウトソーシング
監視・運用パッケージ
サーバー基礎構築サービス
マネージドL2/L3スイッチ

セキュリティ・運用サポート

不正侵入検知/防御サービス（IDS/IPS）
ITインフラ調査・アセスメントサービス

ネットワーク



バーチャルブリッジ（L2接続）
インターネットコネク
インターネット接続サービス
プライベートコネク
クラウドネットワークコネク

パートナーサービス

Google Cloud

データセンターからクラウドまで全て自社で運用
各レイヤーを相互連携させる他社にはない強み

IDCフロンティアについて

実際にいただいたご相談例

現状と同様の構成でIDCフロンティアのサービスに移行した場合の見積りがほしい

オンプレミス環境からクラウドへの移行した場合のメリット・デメリットを教えてください

どのサービスを選択、組み合わせればいいのか分からないので、自社システムに最適な構成を提案してほしい

具体的な案件は無いが、今後の運用について相談に乗ってほしい

お問い合わせ

まずは、お客さまの
現状と課題をお聞かせください。
貴社に最適なお提案をご用意
いたします。

お問い合わせフォーム

<https://www.idcf.jp/cloud/contact.html>

